

熱視線集中! 世界で大注目の ヴェルバー率いる ウィーン交響楽団来日迫る!

楽都ウィーンゆかりの作曲家ブラームスと
ベートーヴェンの響きをサントリーホールで聴く!



オメル・メイル・ヴェルバー (指揮)
Omer Meir Wellber (Conductor)

©Lukas Beck

いま、指揮者オメル・メイル・ヴェルバーをめぐって、イタリアやドイツ語圏のオペラハウス、オーケストラが争奪戦を繰り広げている状況だ。(中略)ウィーン・フォルクスオーパーの顔でもあったヴェルバーは「いまウィーンで最もアクティブな指揮者のひとりなのだ。」

奥田佳道 (音楽評論家)

ヴェルバーのドレスデン国立歌劇場首席客演指揮者時代も、シュターツカペレ・ドレスデンの敏腕の事務局長として時を共にしていた、ウィーン交響楽団現支配人のナスト氏より、来日に先駆けてメッセージが寄せられました。

私はオメル・メイル・ヴェルバーのキャリアを長年追いかけてきました。彼について特に素晴らしいと思うのは、集中したエネルギーと純粋で尽きることのない創造性です。これは彼の音楽性とプログラムを特徴づけています。彼は確実に若い世代の中で、もっとも成功し、注目に値する指揮者の一人です。コロナ禍の時期に、オーケストラとしてやっと彼を迎える機会を得ました。この時は“Wohnzimmer-Konzerte” (コロナ過に行われたコンサート配信)というストリーミング企画の一つに出演してもらいました。その後多くの企画を共にし、最近ではウィーン・コンツェルトハウスにおける大晦日恒例の「第九」を指揮しています。彼のような指揮者を日本の聴衆の皆さまにご紹介できることを楽しみにしております。

ヤン・ナスト(ウィーン交響楽団支配人)

14年前、ベートーヴェンの「皇帝」をサントリーホールにて初共演して以来のウィーン交響楽団。今回はイスラエル出身の鬼才・指揮者、オメル・メイル・ヴェルバーとの共演。アイデア豊富なマエストロと、どのようなコラボになるのかが、今から大変楽しみ!

演目は大好きなブラームスのピアノ協奏曲 第1番。青春の勢いと激しさ、悩み、憧れと愛情。この作品を演奏する度、心を揺さぶられるのだが、この作者のブラームスは一体どんな人物だったのであろうか? 作曲された170年前にタイムスリップして、彼に出会ってみたい! という私のわがままな望みが科学的に未だ不可能である限り、是非音楽を通してブラームスに会いに、音楽会へお越しいただきたい!

河村尚子 (ピアニスト)



©Marco Borggreve

国際的な活躍を続ける河村尚子 ブラームスへの期待



©Marco Borggreve

河村尚子さんのピアノに初めて接したときのことは忘れられない。2024年はデビューからちょうど20年の由。とすれば、デビュー後3年にあたるだろうか、あれは2007年の秋、東京でモーツァルトの協奏曲第23番イ長調を聴いたのだが、これが後にも先にもない魅力的な23番だったのだ。

喋っている時の声、その喋り方、間の置き方、表情。そういったものがすべて人を惹きつけてやまない、そんな人間に、ごくまれに出会うことがあるだろう。言ってみれば、そうした「今どき珍しい」例に出くわした感じ。「これはずっと日本で音楽をやってきた人じゃないぞ。」そう直感してプロフィール欄を見たら、果たして、「5歳でドイツにわたる」とある。その後も、自分の意志でドイツに、ヨーロッパに残り、ピアノを学び続けたという。

以後、日本での公演はできる限り聴くようにしている。この間、さまざまなレパートリーで楽しませてくれたが、ブラームス作品も、晩年の「間奏曲」をはじめ、二つの協奏曲でも実力のほどを見せつけた。いずれもピアニスト泣かせの難曲で、第1番のほうは、弾き過ぎると手を壊すという話も聞く。そんな作品を、叙情味も豊かに聴かせるのだ。

西宮に生まれた河村さんは、デュッセルドルフ育ちで、のちにハノーファーの音大で、ロシアの巨匠、故ウラジーミル・クライネフに師事した。つまり北ドイツ出身とも言えるわけで、偶然ながら、これはブラームスのケースに似ている。デュッセルドルフのシューマン家に入りし、シューマンから「オーケストラ曲を書くように」と励まされたブラームスが、最初に書いたオーケストラ付きの曲は、今回河村さんが演奏するピアノ協奏曲第1番であった。それをハノーファーで初演したのである。1858年のことだ。そしてその4年後に、ウィーンに足を踏み入れた…。

河村さんは、ウィーンを訪れた当初、「明日じゃなければ、明後日どうにかなるさ」という、どこカラテン的なウィーン気質に、長く北ドイツに暮らした者として驚いたとか。ブラームスも同じように驚いたかも？ しかしこの種の違和感は、芸術には大切だ。ずっとウィーン、ずっと日本、といった「純粹培養」では、驚きは生まれない。驚きこそは、魅力的な芸術の謂いなのだ。ウィーン響との久しぶりの共演。面白いものになるに違いない。

船木篤也(音楽評論)

インタビュー、ウィーンでの公演レポートなどは
WEBでござんいただけます!

<ヴェルバー インタビュー全文>

<https://www.japanarts.co.jp/news/p8342/>



<ウィーンでの公演レポート>

<https://www.japanarts.co.jp/news/p8343/>



<ウィーン交響楽団

ヴィオラ奏者 羽柴累さん インタビュー>

<https://www.japanarts.co.jp/news/p8397/>



指揮：オメル・メール・ヴェルバー ウィーン交響楽団

3月13日(水) 19:00開演

サントリーホール

(ピアノ：河村尚子)

ブラームス：ピアノ協奏曲第1番 二短調 Op.15

交響曲第1番 ハ短調 Op.68

3月14日(木) 19:00開演

サントリーホール

ベートーヴェン：交響曲第8番 へ長調 Op.93

交響曲第7番 イ長調 Op.92

SS 28,000円 / S 24,000円 / A 18,000円 / B 13,000円 / C 8,000円

文化庁 劇場・音楽堂等における子供舞台芸術鑑賞体験支援事業対象公演 (申請中) 18歳以下無料招待!

詳細
お申込



《お申込》 ジャパン・アーツぴあ 0570-00-1212 www.japanarts.co.jp ジャパン・アーツ

検索

<その他の日本公演スケジュール> 3月15日(金)兵庫県立芸術文化センター/KOBELCO 大ホール (問)0798-68-0255